



# T T A K

退院後も

つながります

あなたの

こころとからだ

12月15日号  
地域医療連携室発行

今年も残すところあと15日となりました。みなさんにとってどんな1年でしたか？

我が播磨病院のスタッフは今年もいろんな活躍の場を見せてくださいました。

さて今回のTTAK新聞は、今まさに頑張っておられます糖尿病研究会「若鮎の会」の代表世話人  
臨床検査科 松浦 三智子 さんにお話を聞いてきました。

## 検査技師の糖尿病研究会「若鮎の会」

## 代表世話人 松浦 三智子 さんに聞く！



Q: 松浦さんこんにちは！今回、第43回日本糖尿病学会近畿地方大会でも発表されたんですね。お疲れさまでした。どのような内容で発表されたのですか？

A: 平成18年11月18日京都国際会館で「糖尿病療養指導における臨床検査技師の役割」～院内での業績  
地方研究会の立ち上げ～でポスター展示とショート口演を行いました。

Q: では、この『若鮎の会』を立ち上げたということですが、

会の趣旨と呼称の由来を教えてください。

A: 糖尿病患者教育の指導力の向上及び技師のスキルアップを図ることを  
目的として近隣施設と密に連携し情報交換や勉強会を行うため  
の研究会として発足しました。

この研究会は全国規模で立ち上げる予定となっておりますが、  
運営は各地区で小規模に行います。なお西播磨地区での研究会  
の呼称は鮎釣りで有名な清流、千種川・揖保川流域の施設  
を中心として発足しましたので、いつも元気で若々しく、と  
いう意味を込め『若鮎の会』としました。

Q: どういった方が参加しておられるのでしょうか？

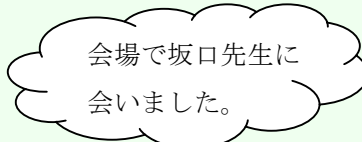
A: 西播磨地区の日本糖尿病療養指導士、および今後資格取得を  
目指している糖尿病療養指導担当の臨床検査技師です。現在、  
赤穂市民病院・赤穂中央病院・宍粟総合病院・神崎総合病院及び、当院の技師10名です。なお新日鉄  
広畑病院も参加予定です。

Q: 具体的な活動について何かありましたらお願いします。

A: 現在、各施設の糖尿病療養指導の内容報告を行い、問題点などを討議しています。

Q: 松浦さんは日本糖尿病療養指導士の資格をお持ちということですが、いつ取得されましたか？

A: 平成14年4月1日です。(備考)日本糖尿病療養指導士とは、一定の基準を充たした施設のコメディカル  
(薬剤師・臨床検査技師・栄養士・看護師・理学療法士)に対して日本糖尿病療養指導士認定機構が行  
う認定試験に合格した者に与えられる資格です。コメディカルにおける糖尿病療養指導のプロとして認め



ポスター展示の前で

られます。なおこの資格は5年ごとに更新があり、更新には定められた研修会の参加、糖尿病療養指導自験例（レポートのようなもの）の報告が必要となるなど資格取得後も日々の研鑽が必要です。

Q: 今後、糖尿病療養指導士（CDE）による指導は保険点数に加算される可能性もあるという話を聞きました。重要な資格ですね。臨床検査技師でこの資格をお持ちの方はどれくらいおられますか？

A: 平成17年6月15日現在、全国で1,200名、兵庫県で50名です。

Q: 臨床検査技師と糖尿病との関わりについて何かご意見がありますか？

A: 糖尿病療養指導は臨床検査技師として直接患者治療に貢献できる数少ない業務のひとつだと考えています。現在指導料などの収益性はありませんが、技師だからできるという付加価値があることをご理解ください。

Q: 最後に今後の抱負などありましたら自由にお願ひします。

A: 検査で始まり検査で終わると言われるほど、糖尿病と検査は密接な関係にあり、患者情報の源です。

その特色を活かしチーム医療の中核になれるよう努力していきたいと思ひます。

Q: ありがとうございます。『若鮎の会』の今後のご活躍を期待しています。



**みなさんいかがでしたか？糖尿病療養指導も地域との連携が重要ですね。**

**さて、今年のTTAK新聞もこれで最後になります！**



&

**A Happy  
New  
Year!**

**をお迎えください♪**

**来月は..**

**第1種消化器内視鏡技師を取得されました内科外来の**

**久下 江利 さんです。 お・た・の・し・み・に♪**



T・TAK新聞のバックナンバーは、播磨病院ホームページ  
<http://www.harima-hp.jp/main.htm>からご覧いただけます

b y . Y . M